

２．基本的考え方

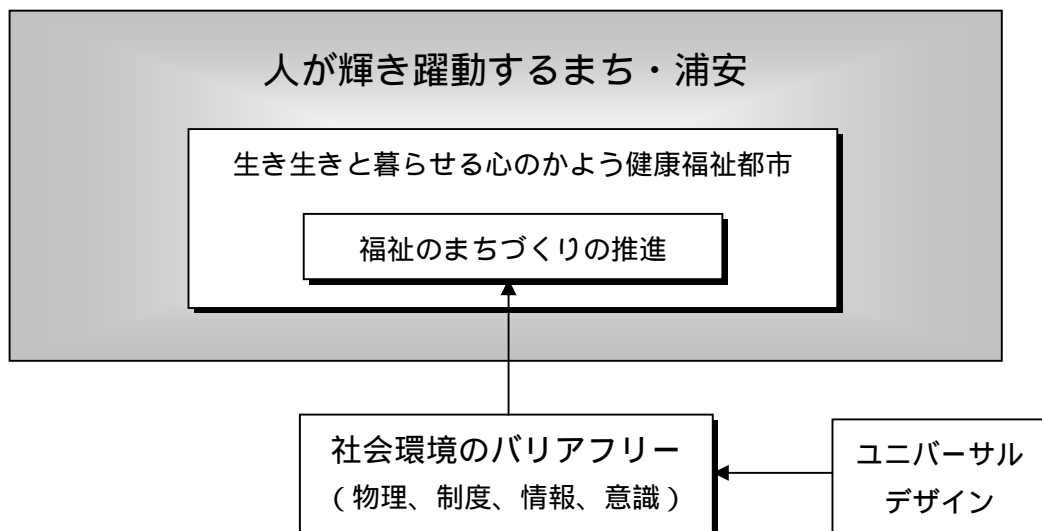
１）浦安市におけるバリアフリーの基本的な考え方

浦安市は「人が輝き躍動するまち・浦安」を目標として掲げ、個人が能力と創造性を十分に発揮することのできる都市形成を目指しています。そしてその都市像のひとつに「生き生きと暮らせる心のかよう健康福祉都市」を掲げ、すべての人が安心して生活し、自由に行動し、平等に参加できる社会の実現を目指す「福祉のまちづくりの推進」を具体的施策として掲げています。

浦安市は全国平均に比べ高齢化率が低い、若い世代が多い市です。しかし、確実に到来する高齢社会への対応や、障害のある方の自由な社会参加を保障するノーマライゼーション社会実現に向けて取り組んでいくことが社会的使命となっています。また、少子化の傾向が強まる中、若い世代が安心して子育てができる環境の整備も必要となっています。

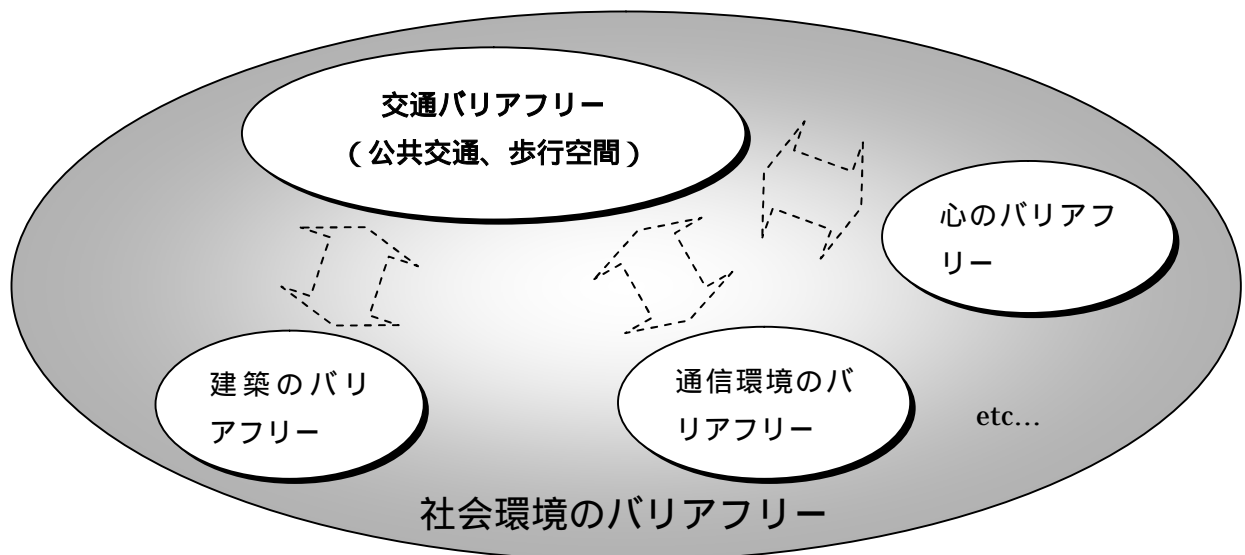
そのため、浦安市では「福祉のまちづくり」を推し進め、社会環境のバリアフリーを目指します。バリアフリーは、社会の持つ様々な障壁（物理、制度、情報、意識）を取り除くことを意味しており、すべての人が平等に社会参加を実現するための有効な手段であるといえます。

また、バリアフリーは障壁を取り除くという具体的な行為ではありますが、その手法、方法等についてはユニバーサルデザインの考え方をもとに進めていきます。



2) 交通バリアフリーの基本的な考え方

交通環境のバリアフリーは、すべての人が平等に社会参加を実現するために必要な‘移動’を保証することです。交通バリアフリーが対象とする環境は主に公共交通、歩行空間となります。



浦安市では、すべての人の移動を保证するため、鉄道、バス等の公共交通、歩道、通路等の歩行空間について、ユニバーサルデザインの考え方に基づく移動円滑化を全市的に推進します。

また、他のバリアフリー施策と連携し社会環境のバリアフリーの実現を目指していきたいと考えています。

３）交通バリアフリー基本構想の基本的な考え方

浦安市では、これまでも積極的なバリアフリー化を推進してきましたが、それぞれが関連して実施されている場合は決して多くなく、点的な整備であったことは否めません。

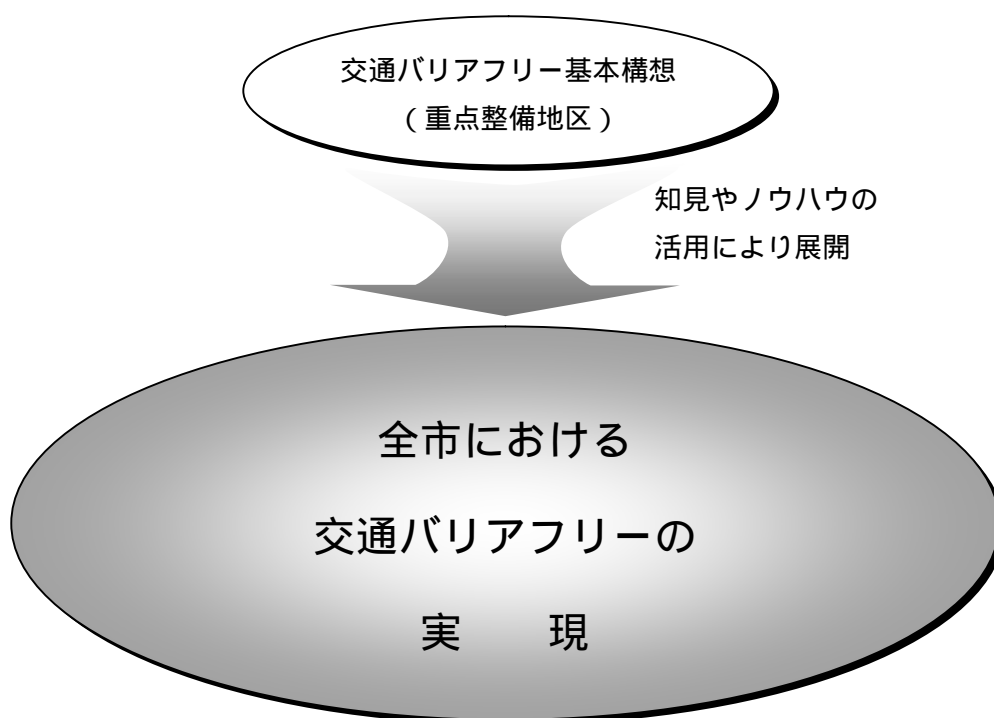
交通バリアフリー基本構想は、そういった点的な整備を、体系だった線的な整備として実現化できることに大きな特徴を持っています。しかも平成 22 年までの事業実施という期間限定で実施することから、短期的に確実なバリアフリー環境を実現できます。

そのため、交通バリアフリー基本構想を策定することで、各駅周辺の目的施設までの移動円滑化を体系立てて実施することが可能であり、その効果は大きいものと考えられます。

また、交通バリアフリー法では、市町村が交通バリアフリー基本構想を作成する際に、関係事業者との調整や高齢者・身体障害者等の意見反映を行うことが示されており、地区限定、期間限定ではありますが、関係者が連携してバリアフリー化を実現する枠組みを含んでいます。

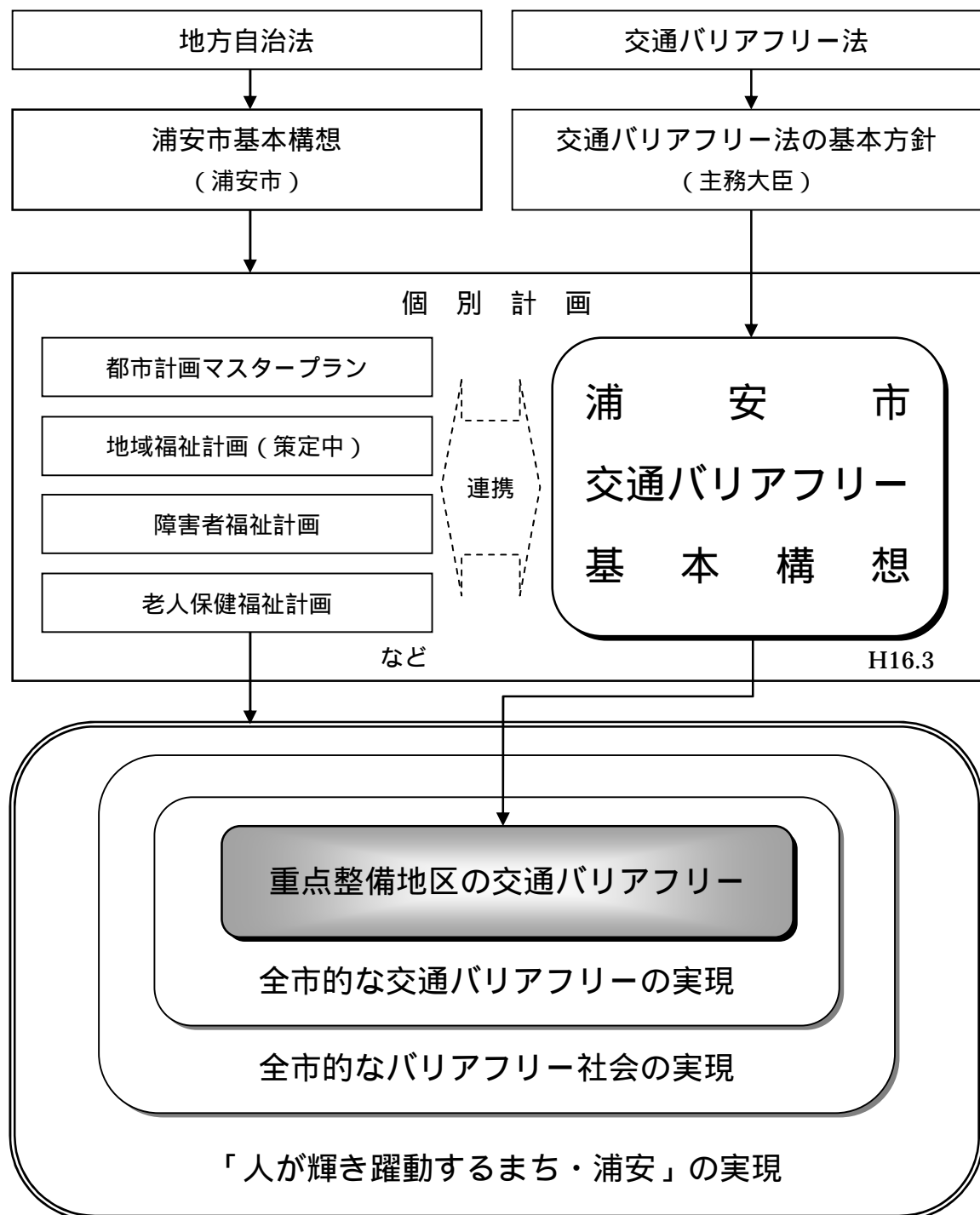
交通バリアフリー法の枠組みを活用しよりよい交通環境整備を実現させ、これを契機に浦安市における交通バリアフリー化施策を広く推進していくことが、交通バリアフリー基本構想を策定する大きな意義であるといえます。

すべての移動環境を短期間でバリアフリー化することは都市構造の制約や財政的にも非常に難しく、長期的かつ段階的に取り組んでいく必要があるといえます。そこで、浦安市では、全市的な交通バリアフリーの実現のために、第 1 段階として交通バリアフリー法に基づく基本構想を策定し、今後の交通バリアフリーのモデル的事業として位置づけ、ここで得られる知見やノウハウ等を活用し全市的に展開していくことを考えています。



4) 交通バリアフリー基本構想の位置づけ

これまでの考え方をまとめると、浦安市における交通バリアフリー基本構想は以下のような位置づけとなります。



5) 基本原則

市民参加

市民意見を十分に反映します。

高齢者、身体障害者等の当事者の意見を反映した基本構想の作成及び特定事業の実施を行います。

基本構想の策定過程においては、市民（公募も含む）が委員として「浦安市交通バリアフリー基本構想策定協議会」に参画し、市民意見反映の場を設けました。また、当事者参加による「まち歩き」を実施し、まちの問題点や当事者の要望等の把握を行いました。

基本構想策定後は、特定事業実施段階においても市民参加が図られるよう、継続的に関係事業者へ働きかけを行っていきます。

移動円滑化の実現

関係者と調整し移動円滑化を実現します。

庁内の横断的な協力体制と協調した交通バリアフリーの実現のため「浦安市交通バリアフリー基本構想策定に関する内部検討委員会」を立ち上げました。また、基本構想の策定には、市民、学識経験者、関係事業者を含む「浦安市交通バリアフリー基本構想策定協議会」により関係者間の協議を実施し、実現可能な移動円滑化の内容を定めた基本構想を策定しました。

また、基本構想策定後には市の責任のもと進捗状況の把握を行い、事業実現を監督します。

平成 22 年を整備目標とします。

基本構想に示された内容が実現するように事業実施の目標年次を定め、その年限を平成 22 年までとします。

ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインに基づく移動円滑化を実施します。

既存施設の改良などを行いバリアフリーを行っていくこととなりますが、その改修方法や設置場所の検討等については、誰もが利用しやすい「ユニバーサルデザイン」の思想をもとに移動円滑化を実施します。

移動円滑化ガイドライン等に基づく質の高い移動円滑化を目指します。

交通バリアフリー法の施行に伴い、道路及び公共交通機関旅客施設の移動円滑化基準ならびに移動円滑化ガイドライン等が策定されました。

交通バリアフリー法に係わる基準

| 略 名 | 基準名称 |
|-----------------|---|
| 移動円滑化基準 | 重点整備地区における移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準 |
| | 移動円滑化のために必要な旅客施設及び車両等の構造及び設備に関する基準 |
| | 高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に係わる信号機等に関する基準を定める規則 |
| 移動円滑化 ガイドライン | 道路の移動円滑化整備ガイドライン |
| | 公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン |

移動円滑化基準では、重点整備地区における最低限度のバリアフリー化の基準を示しており、特定経路に選定された道路については基準適合への義務化、また、既設の公共交通機関旅客施設においては基準適合への努力義務が課せられています。

移動円滑化ガイドラインでは、移動円滑化基準に基づき補完する内容や、さらに望ましい基準等が示されており、質の高い整備内容も示されています。

浦安市の基本構想では、ユニバーサルデザインの原則に立ち、できる限り移動円滑化ガイドラインに基づいた質の高い移動円滑化を目指すこととします。

心のバリアフリー

移動円滑化とあわせて心のバリアフリーを推進します。

確実な移動円滑化が実施されても、放置自転車等により歩道幅員が狭められたり、視覚障害者誘導用ブロック上へ商品台が置かれるなど、運用面でのバリアが発生します。これは市民の一人ひとりの意識の問題であり、市では心のバリアフリーを移動円滑化整備と両輪と捉え、積極的に啓発・広報活動等を実施していきます。

また、「介助をしてあげたくても介助方法がわからない」、「どうやって声をかけていいかわからない」といった潜在的な介助意識の掘り起こしが同じく必要と考えます。市として積極的な学習・教育の機会を設けたいと考えています。

全市への展開

関連計画と整合を図りつつ移動円滑化を展開します。

基本構想を実現するためには各種施策と連携し、効果的な事業展開を図っていかねばなりません。関連計画の推進に当たって、交通バリアフリー基本構想の精神を反映させ展開を図っていきます。

重点整備地区以外についても移動円滑化を推進します。

基本構想策定で得られた知見やノウハウを効果的に展開し、重点整備地区外の地区についても移動円滑化を推進します。

[重点整備地区に選定されなかったその他の特定旅客施設周辺地区]

重点整備地区に選定されなかったその他の特定旅客施設周辺地区については、交通バリアフリー法の改正等を見据えつつ、段階的な基本構想策定の可能性を検討します。また、基本構想が策定されなかったからといってバリアフリー化の必要性が低いとは言えないため、道路環境整備や市街地整備事業等にあわせ移動円滑化を随時実施していきます。

[特定旅客施設周辺地区以外の地区]

生活道路を含む市内すべての道路の移動円滑化は、長期的な視点で道路整備等にあわせ実施していく必要があります。また、福祉タクシー等のドア・ツー・ドア・サービス等、個別の交通機関を活用した移動円滑化も考えられます。総合的な交通環境整備という視点をもとに全市的な移動円滑化を検討していきます。